

令和7年度 学校経営方針

府中市立府中第二小学校
校長 忍足 留理子

1 学校経営の基本理念

『学校は、子供たちにとって安全で安心でき、楽しく過ごせる場所であるべき』

心豊かにたくましく生きる子供を育てる学校づくり

～かかわりを通して高め合う 笑顔あふれる府中第二小学校～

学校は、児童のためにある。保護者から信託を受けた一人一人の児童の健やかな成長を目指して確かな学力を育み、夢や希望を抱いて心豊かにたくましく生きていく児童を育てたい。そのためには、学校は子供たち一人一人に居場所があり、安全で安心できる場所であるべき。子供たちが自ら目標をもち、その目標に向かって日々努力を継続し、ねばり強くやりぬく力を育てる（主体的に取り組む力）。そして、子供たちがかかわりを通して高め合い、夢や希望をもって自ら課題にチャレンジし、笑顔あふれる学校づくりを行う。

このような考えに基づき、府中第二小学校の子供たちの健やかな成長のために、経営の理念を「心豊かにたくましく生きる子供を育てる学校づくり」とし、この理念に向かって、教育目標の具現化を図るための学校経営を行う。

2 府中第二小学校の教育目標

◎よく考え 進んでやる子

自ら学ぶ意欲をもち、自ら課題を見つけ考え、正しく判断し実践できる子どもを育てる。

心豊かで 思いやりのある子ども

自らの感じ方、考え方を大切に伸ばすとともに、他のよさを認め仲良く協力できる子を育てる。

明るく元気で ねばり強い子ども

健康で明るく、良い生活習慣を身に付け、目標に向かって努力し、最後までやりぬく子を育てる。

I 教育目標の具現化

○ 確かな学力を育む教育（知）

「実践力」「問題解決力」

○ 思いやりの心を育む教育（徳）

「人間関係形成力」

○ 心と体の健康をつくる教育（体）

「挑戦力」

II 経営課題

○ 学力向上をはかる授業改善

○ かかわりを重視した教育活動

○ 開かれた学校づくり

○ 特別支援教育の充実

○ 体育授業の改善による児童の体力向上

3 めざす学校像

児童一人一人の健康・安全を最優先に考えることが、学校として最も重要なことである。全ての判断基準は、「子供たちの健康・安全」「子供たちのためになるか」である。一人一人の児童のために動いている学校をめざし、ハード面・ソフト面ともに児童の学習環境を整え、かかわりを通して互いに高め合える教育活動を構築していく。

(1) 知・徳・体の調和がとれた児童を育成する学校

- ・児童が、主体的に授業や行事に参加しながら、自分の意思で行動し、学力・思いやり・規範意識・体力などの調和のとれた「生きる力」が身に付けられるようにする。

(2) 家庭・地域に信頼される学校

- ・保護者・地域から信頼され、安心して児童を託せる学校であり、地域に貢献できる学校をめざす。
- ・地域で育つ児童を義務教育9年間で育成するという視点を持ち、近隣小中学校（若松小学校・浅間中学校・府中第一中学校等）との連携を大切にする。

(3) 教職員の協働体制による組織として教育力を発揮する学校

- ・マネジメントサイクルを意識し、常に改善する視点をもつ。
- ・報告・連絡・相談・確認を徹底する。課題には、初期対応を重視し、スピード感をもって組織としての解決に取り組む。

『常に、迅速・丁寧・組織的対応を！その日のうちにできる最大限のことをする』

4 めざす教師像

児童を愛し、互いに切磋琢磨し合い、指導力の向上をめざし、何事にも挑戦する教師

『かかわりを通して高め合う 笑顔あふれる府中第二小学校』

☆実現のための3つのキーワード☆

- 《かかわり》 様々なかかわりを通して、互いに認め合い、高め合う
- 《挑戦》 常にポジティブ思考・姿勢で、目標に向かって挑戦する
- 《信頼》 充実したかかわり合いや学び合いから信頼関係を育む

5 教育目標の具現化

1 確かな学力を育む教育 『実践力』『問題解決力』

(1) 基礎基本の徹底（言語能力の向上）

読む力（読解力・読書力を高める）

- 国語科の学習での読解力の向上を図る。
- 読書活動の推進により、読書する習慣を身に付けさせ、読書力を高める。
- 読書支援ボランティア・図書ボランティア、図書館指導員との連携を深めて、読書環境の充実や読み聞かせ等の読書活動の発展を図り、読書への興味や関心を高める。
- 図書室や学級文庫の蔵書について、児童の発達段階に即した質と量を充実させ、常に読書のできる環境を整える。

書く力（作文指導の充実）

- 国語の授業を中心に各教科・領域における指導を通して、文字（ひらがな・カタカナ・漢字）の習得を徹底する。

- 言葉と言葉との関係、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、言葉による見方・考え方を働かせる指導をする。
- 自分の考えや気持ちを豊かに表現できるよう書く力を育てる。
- ロータリー作文、浅間作文、人権作文などの機会を有効に活用し、該当学年で取り組んでいく。

計算力の向上

- 計算力（加減乗除）を高めるスキル学習に取り組んでいく。
- e ライブラリを活用し、朝学習時間や家庭学習に取り込んでいく。
- 各学年がその学年で定着させるべき内容を明確にし、学習内容の定着を図る。個別指導では、ドリル学習を取り入れる。
- ★ 1, 2 年生は学習支援員を活用した T T 指導、3 ～ 6 年生は習熟度別少人数指導の充実を図ると共に、個に応じた指導も充実させる。

(2) 表現力の育成（伝え合う力の向上）

- 国語の授業を中心に、校内研究とリンクさせ話すこと・聞くことの力（対話力）を高めていく。（よい聞き手と話し手の育成）
- 国語の授業で文章の内容を読み取る力を向上させ、思考力や表現力を育てる。
- 言語を手がかりとして、論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う。
- 言語を通して正確に理解したり、適切に表現したりする力を高める。

(3) 「かかわりを通して高め合う児童を育てる」指導法の工夫：授業改善

全教科の授業の充実・改善を図り、かかわりを通して互いに学び合い、高め合う児童の育成（主体的な学び）を目指す。

府中市教育委員会の目指す教育のグランドデザイン（4つの視点）を重視した授業改善を行う。

- グランドデザインの4つの視点「発見」「対話」「決定」「表現」を取り入れた授業を展開し、児童の資質・能力を育成する。
- ICT 機器を活用し、一人1台端末での学びをさらに工夫し、効果的な授業を行う。
- 個と集団のかかわりを重視した指導法（対話的な学び等）を充実・改善する。
- 学習の個別最適化と協働的な学びを意識した授業を行う。
- 人・自然・社会に進んでかかわり、自ら課題をもち、挑戦する力を育てる。
- 自分の課題を解決するために、既習学習を生かして考えたり、解決したりする力を育てる。（課題解決学習）
- 全教科の指導において、ユニバーサルデザインの授業づくりの視点（視覚化・焦点化・共有化）を取り入れた授業を行う。また、教室環境についてもユニバーサルデザインの視点を考慮する。
- 自ら考えたことや解決したことをノートにまとめる力を育てる。
- 「めあて」を意識した「振り返り」の充実を図る。

(4) これまで積み重ねてきた本校の研究を生かし、対話力・表現力の育成をすすめる。

- これまで研究した体育や国語、算数の成果を日々の授業で生かし、対話力・表現力を育て、深い学びを目指す。
- 既習学習を生かして自ら考え、その考えを伝える力を育てる。
- 自分の考えを自分の言葉で、互いに伝え合う力を育てる。（対話的な学び）

(5) 外国語教育の推進

- A L T ・ I C T 機器・デジタル教科書の有効活用による外国語でコミュニケーションがとれる授業づくりを進める。

- 近隣の大学留学生（東京外国語大学等）との交流を意図的・計画的に進めていく。
- 学期に1～2週間の「英語 Enjoy Week」の取組の充実を図る。

（6）府中二小及び地域の特性を生かした教育活動の推進（コミュニティースクールとして）

- 府中市の自然・歴史や文化、地域の方々とのかかわりを重視した教育活動を展開すると共に、地域コーディネーターを活用し、地域の特性を生かした教育活動を行う。
 - ・芝生の校庭、恵まれた環境を生かした活動の充実・発展をさせる。
 - ・ニコニコ園（校舎南側）や地域に借りている畑等を有効活用し、自然と触れ合う体験活動を充実し、理科・生活科、総合的な学習の授業に反映していく。
 - ・府中二小の歴史や伝統を築き、学校を支えてくださる地域の方々のご協力のもと、歴史や文化と関わる活動を充実・発展させる。
 - ・お囃子や雅楽などの地域の文化、府中市美術館や郷土の森博物館等を活用して、郷土に根付いた教育活動を展開し、郷土愛を育む。
 - ・総合的な学習の時間や生活科では、地域を生かしたキャリア教育を推進する。地域人材や地域学習材を活用した取組を計画的に実施する。
- 「ウインドオーケストラ」「和太鼓」の活動の充実を図る。外部講師との連携を大切にし、対外的な活動への支援体制を整える。
- 校庭の芝生の維持管理について、グリーンキーパー・業者・PTAとの連携を図る。また、芝の苗作りや苗植えを通して、児童の愛校心を高めていく。

（7）小中連携教育においては、中学校区の中学校や小学校との連携を深め、学びと育ちの視点を明らかにして取り組む。どの教科も教科ごとの系統性や指導法、学び方等について、明らかにしてきたものを、計画・実施する。また、学習規律や生活指導についても共通理解をし、指導をすすめる。

- ・学習規律や挨拶等については、小中学校（浅間中学校・若松小学校）で共通して指導する内容を明らかにしたものをもとにすすめる。
- ・教科の系統性や指導法、学び方について教科ごとに計画をし、実施していく。
令和7年度は、言語活動を重視した授業を行っていく。
- ・今までつくり上げてきた小学生と中学生とのかかわり合い活動を充実させていく。（あいさつ運動、運動会での中学生ボランティア、職場体験等）

2 思いやりの心を育む教育 『人間関係形成力』

（1）基本的生活習慣の育成

- 挨拶運動を推進し、自ら進んで挨拶ができる児童を育てる。
- 月に1回、心の健康観察『こころウォッチ』を実施し、児童一人一人の心の状態を把握し、適切に対応する。（いじめ、不登校等の未然防止）
- 人・物・言葉を大切にすることと態度を育てる。
- 生活指導の年間指導目標の具現化に努める。
 - ・挨拶をする ・廊下歩行 ・時間を守る
- 家庭との連携のもと、「早寝・早起き・朝ご飯」の生活のリズムを大切にする。
- 小中連携教育として、中学校との連携を生かした取組を実施する。

（2）豊かな人間関係を育む（認め合い・励まし合い・高め合う→切磋琢磨）

- 学級経営を基盤とし、児童理解を深め、豊かな人間関係を育む。
- 全児童を全教職員で支援し、育んでいく。

- 望ましい集団活動を通して、集団の一員としての自覚を高め、自治的・自発的な態度を育てる。
- 学年会・生活指導夕会・特別支援全体会・校内委員会等を活用し、情報交換を密に行い、児童理解を深めるとともに組織的な指導体制を確立する。

(3) 道徳授業の充実改善

- 道徳指導全体計画に基づき、別葉や教科書等を生かし、意図的計画的に授業を展開する。(指導すべき内容項目を確実に押さえる。)
- 特別な教科道徳の授業は、授業改善(考える道徳、議論する道徳)を積極的に行っていく。
- 道徳授業地区公開講座を実施し、意見交換会を通して保護者・地域の方々とともに児童の心情を育んでいく。
- 道徳の教科書を中心に、「府中に根ざした道徳資料集」「東京都道徳教育資料集」「文部科学省発行の読み物資料」も活用して、道徳教育を行い、公開する。

(4) 特別活動の推進

集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせながら、児童がよりよい自分や学級・学校生活、人間関係を築く活動を通して、共生社会でよりよく生きる力を育む。また、校内研究(国語科)を通して育成している児童の話すこと・聞くことの力を、児童がより主体的に活動できるようにしていく。

- 学級会で「話合いの充実」を図る。(全学年、年15時間以上)
- 学級生活を楽しく豊かにする係活動の充実
- 将来を見通し、なりたい自分に向けて努力する学級活動の充実(キャリア教育)
- 自発的・自治的な活動を通して、学校生活を楽しく豊かにする児童会活動の推進。
- 学校の特色を生かした学校行事を通して、児童の所属感や連帯感を育む。

(5) コミュニティースクールとして、かかわりを重視した活動の推進

人とのかかわりを重視した学習を通して思いやりの心や生命尊重の心を育む。

さらに府中の自然、歴史や文化とのかかわりを重視したふるさと学習を通して、郷土や学校を愛し誇りに思う心を育む。

- 人とのかかわり
 - ・ 友達との学び合いを大切にした学習活動(個と集団のかかわりを重視した授業づくり)
 - ・ 年間を通しての集団登校や仲よし学級、近隣幼稚園・保育園との交流活動等における異学年、異年齢、特別支援学級の子供同士の交流活動。
 - ・ 浅間中学校や府中第一中学校との交流学習や交流活動を個々の学年や特別支援学級で推進。
 - ・ 地域の方々を学校に招いての学習活動(コミュニティースクールの取組)を推進。
- 府中の自然や文化とのかかわり
 - ・ 植物の観察や栽培活動、飼育活動、落ち葉掃き等の活動
 - ・ 「郷土府中に根ざした道徳資料集」「郷土カルタ」等の活用
 - ・ 生活科や「二小タイム」：自然や環境、歴史や祭り、お囃子、雅楽等の学習
 - ・ 府中市美術館、郷土博物館等の活用。
- 世界との関わり
 - ・ 地域とともに「未来につなぐ府中 2020 レガシー」を推進する。
 - ・ 近隣の大学留学生との交流の機会を設定する。

3 心と体の健康をつくる教育 『挑戦力』

(1) 健康づくり

- 健康診断や身体測定等を生かし、自分の体に関心をもち、進んで健康の保持増進を進める。
- 養護教諭等を生かした保健学習を実施する。(体育科の保健領域や計測時の保健指導)
- 外部講師を招聘し、がん教育を実施する。
- 各月の保健指導目標を意識化する指導を進める。
- 学校保健委員会の開催：学校医、学校薬剤師等やP T Aや近隣小中学校との連携で実施する。
- 食育と給食に関する指導は、給食センターと連携して、充実させる。

(2) 体育授業の改善と体力の向上

「心豊かにたくましく生きる子どもを育てる」ための指導法の工夫（授業改善）や体力向上に繋がる運動の日常化、学習環境の整備等を推進する。

- 体育科においても主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりをすすめる。
- 府中第二小学校の環境や施設等を考慮した体育授業を展開する。
- 芝生の校庭、豊富な遊具を活用し、楽しみながらバランス感覚を養い体力の向上をめざす。
- 学習指導要領に則った体育科年間指導計画に沿って、意図的・計画的に授業を展開する。
- スポーツテストを実施し、体力向上や運動の習慣の大切さに気付かせ、一人一人が自分にあつためあてをもって、自らの体力の向上をすすめる。運動の日常化を目指し、体育的活動を充実させる。

(3) 児童の心の居場所となる教育環境づくり

- 不登校児童や登校に不安を抱える児童の居場所づくりを進める。
(サポートルーム、はあとルーム、保健室、教育相談室等の活用)
- 季節感や児童の成長を感じる校内掲示物を工夫する。
- ユニバーサルデザインを考慮した教室掲示や教室環境作りに努める。
- 花いっぱい運動と校庭の環境美化を推進する。
- 言語環境を整備し、正しい言語感覚を育成する。

(4) コミュニティースクールとして、家庭・地域との連携による健全育成

- 学校・家庭・地域が一体となって、子供を温かく見守り育てる。
- 日頃からの情報交換を密にとる。報告・連絡・相談（ほうれんそう）

(5) 特別支援教育を含む支援教育を充実、推進をする。

- 特別支援教育の充実・推進に向け、校内支援部会が中心になって、組織的、計画的に取り組む。
- 特別支援部会は、特別支援教育コーディネーターが複数所属し、部会の長を中心に取組をすすめる。
- スクールカウンセラー（週2回来校）、家庭と子供の支援員、サポートルーム担当支援員等による個に応じたきめ細やかな対応を推進する。

- 校内の指導体制では、校内支援部会が中心となり、全教員が協力して行う。
- 教育センター（巡回相談チーム）、子ども家庭支援センター「みらい」、児童発達支援センター「はばたき」、児童相談所、府中警察署の少年係（スクールサポーター）等、関係諸機関との連携を必要に応じて行う。
- 特別支援教室「ひばり」の専門員、巡回心理士との連携を密に図っていく。
- サポートルームを設置し、不登校、登校しぶりの児童へきめ細やかな対応を図っていく。

6 学校組織の活性化と組織力の向上・働き方改革

学校経営方針の達成に向け、学校の協働体制を強化し、信頼される組織づくりを進める。学校組織を活性化させるため、常に改善する視点をもつ。働き方改革を推進する。

（１）学校組織力の強化

- 起案システムに加え、「経営会議（管理職・主幹教諭）→企画会議（管理職・主幹教諭・学年主任・分掌主任等）→職員会議（全教員）」の流れを確立する。
- 学校経営支援部会を定期的の実施し、研究発表会へ向けて計画的に進めていく。
- 学校配当予算を無駄にせず、児童の教育に有効に活用していく。
- 報告・連絡・相談・確認を確実に実施する。
- 学年会の充実を図る。全教職員が共通したぶれない指導を徹底する。
- 校務効率化の視点で、職員室のOA化に取り組む。校務支援システム（掲示板等）を活用する。

（２）教育に関わる教員等の人材配置と活用

- 教員一人一人が意欲的に児童の指導に取り組めるような担任配置等を目指す。
- 講師や学校支援員、特別支援学級補助員等の活用は、学校全体の状況や必要度を考慮し、配置や時間等を決める。
- 校長、副校長が教員の人材育成に関われるよう、副校長等校務改善支援員や事務職員を有効に活用する。
- 学校支援員を活用し、教員の業務軽減を図る。

（３）教育に関わる教員等の人材の育成

- 組織を生かした人材育成を行う。
- 各研修や校内研究により、個々の教員の授業力や指導力の向上を図る。
- OJT研修の工夫・充実を目指し、若手教員の資質・能力の向上を図る。
- 支援員や補助員等については、それぞれの職務内容を遂行できるよう管理職と主幹教諭が育成に関わる。

（４）教員の働き方改革を受け、勤務時間や職務内容の改善等に取り組

- 会議の時間の精選、会議時間のもち方の工夫
- 教育課程の工夫
- 休憩時間の確実な確保
- 教員の持ち時数の工夫等
- 学期に一週間、定時退勤週間を設定し、遅くとも午後５時３０分までの全員退勤をめざす。
- 長期休業中の時差勤務の奨励。